

日本アジア投資株式会社 2018年3月期 期末決算説明会
質疑応答 要旨

2018年5月15日（火）開催

Q1：金融機関からのリファイナンス（借入金の組み替え・借り換え）の実現確度、交渉スケジュール、スキーム詳細は？

A1：リファイナンスの実現に向けて検討している所である。現状では、返済を減少してその資金を再投資し今後の収益に向けた資産を積み上げるために、全金融機関に向けて一定額の約定返済の減少をお願いしている。金融機関からは、当社方針に対して一定の理解を得ていると認識している。そのため、リファイナンスが出来なければ、業務に支障が出る訳ではない。また、当社単体ベースでの借入金は圧縮しているが、一方で、再生可能エネルギーなどのプロジェクトにおいては他の金融機関からのプロジェクトファイナンスによる借入残高を増やしており、その資金で資産の積み増しを行っている。

Q2：中期経営計画期間中のファンド設立計画 100 億円の実現可能性は？

A2：First Eastern 社との共同ファンドについて継続協議するほか、日本企業のアジア進出を支援するファンドや、日本のマーケット開拓を狙うアジア企業を投資対象とするファンドの企画を行っている。これらを合わせて 100 億円を目指す。各企画ともにより具体化した段階でご報告する。

なお、ファンドを設立して投資することの意義は、投資を通じたネットワークの拡大や、単独ではリスクの取りにくい分野にもパートナーのリソースを活用して取り組むことが出来るという点にあり、管理報酬を得ることがファンドの設立目的ではない。安定収益はプロジェクト投資で獲得する。

Q3：2019/3 期の従来連結による業績見込値ではプロジェクトの売却高・売却原価が見込まれていないが、プロジェクトを売却しないのか？

A3：一部のプロジェクトについて売却を行う計画であり、その売却益（＝売却高から売却原価を差し引いた金額）を営業収益の中の「組合持分利益等」の中に見込んでいる。売却スキームの違いにより、売却高・売却原価に両建てで計上される場合と、売却益だけが組合持分利益等に計上される場合がある。売却スキームは未定であるが、ここでは売却益だ

けが計上される前提としている。

なお、昨今、再生可能エネルギー電力のニーズが高まっており、完成前のプロジェクトでも買いたいという投資家が出てきている。従来は、建設・完工後に長期保有、若しくは、完工後の売却が中心であったが、今後は完成前の売却により、さらに資金効率を高める余地もあると考えている。

Q4：2018/3 期に、期初の業績見込値をかなり上回ってまで、将来の安定収益源となるプロジェクトを多く売却した理由は？

A4：期中において、プライベートエクイティの利益がもっと下ぶれると見込んでいたため、プロジェクトを多めに売却した結果である。プライベートエクイティの売却は、IPO も、未上場での売却も、最後まで実現できるかどうか分からないリスクがある。なお、プロジェクトを多く売ったことが不利益となっている点はない。他のプロジェクト投資への投資機会が豊富にあるため、売却代金を再投資に振り向け資金効率を高める結果となった。

Q5：3 年後のプロジェクト投資資産残高 90 億円の内訳は？メガソーラーはどの程度か？

A5：明確な内訳は未定だが、メガソーラーは他のプロジェクト投資と比較しても事業リスクが低いため、中軸となる。FIT 価格の高い案件への投資機会が残っているほか、土地の造成リスクが無い水上メガソーラーも今後伸びてくるであろう。メガソーラーで 5～6 割程度、残りをその他の再生可能エネルギーなどとしたと考えている。

以上